

平成 21 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18390596

研究課題名（和文）早産予防を視野に入れた妊婦の口腔ケアの開発

研究課題名（英文）Development of oral care during pregnancy for prevention of premature births

研究代表者

野口 眞弓(NOGUCHI MAYUMI)

日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40241202

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 母性・女性看護学

キーワード：看護学、細菌、口腔ケア、妊婦、歯周病

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、妊娠による口腔内の変化とそれに影響する要因を把握し、妊娠期に適した口腔のセルフケアの方法を開発し、その効果を口腔内環境の視点から判定することである。そのために、以下に示すことを4年間で行う予定である。

- (1) 150名の妊婦を対象に、妊娠初期、中期、末期の3時点で口腔の状態の測定、生活習慣および妊娠経過の調査、ストレスの評価を行う。
- (2) 得られたデータの分析結果にもとづいて妊娠期に適したセルフケアの方法を開発する。
- (3) 開発した口腔のセルフケアの方法を実際の母親学級などで教育し、その教育効果を口腔内環境の変化から判定する。

2. 研究の進捗状況

計画の進捗状況を目標毎に述べる。

- (1) 150名の妊婦を対象に、妊娠初期、中期、末期の3時点で口腔の状態の測定、生活習慣および妊娠経過の調査、ストレスの評価を行う。
2006年10月から2008年12月まで132名の妊婦を対象に妊娠初期、中期、末期の3時点で口腔の状態の測定、生活習慣および妊娠経過の調査、ストレスの評価をするための調査を行った。現在、詳細な分析を行っている。
- (2) 得られたデータの分析結果にもとづいて

妊娠期に適したセルフケアの方法を開発する。

データ分析や文献検討を行い、セルフケアの方法を開発し、2008年9月からDVDを用いて歯周病と早産の関連などの知識普及のための教育、母親学級での動機付け教育、歯科衛生士によるつまようじ法での歯磨き指導、歯垢染色を行う事での歯磨き意欲維持など、教育を開始している。

- (3) 開発した口腔のセルフケアの方法を実際の母親学級などで教育し、その教育効果を口腔内環境の変化から判定する。
2008年9月から口腔ケアのセルフケアの教育を受けた妊婦を対象に、妊娠初期、中期、末期の3時点で口腔の状態の測定、生活習慣および妊娠経過の調査、ストレスの評価をするための調査を行っている。対照群のデータ確保に時間を要しており、実験群の対象者確保が当初計画より遅れている。そこで、データ収集施設を2008年9月から追加し、実験群のデータ収集を効果的に行えるようにしている。

3. 現在までの達成度

やや遅れている

(理由)

予想以上に対照群132名のデータ確保に時間を要したため。

4. 今後の研究の推進方策

実験群の対象者確保のために、新たなデータ収集施設を確保している。